

7月

果実肥大初期

下草刈

◎(実肥)

## ①コウモリガ防除

幼虫の中間寄主である雑草を繁茂させないよう除草を徹底する。防除は防除剤を株元地際部に散布する。食入した幼虫は刺殺する。



コウモリガの幼虫

## ②カミキリムシ防除

上旬から8月にかけて、産卵食痕に殺虫剤を散布するか、又は金槌でたたき卵を潰す。

## ③追肥(実肥)

果実の肥大を目的とし梅雨明け直前に、成木に年間施用量のチツソは1～2割、カリは3～4割を施す。

## ④下草刈

梅雨明け後の乾燥は果実の肥大を阻害するので、草刈と敷草を行い乾燥を防ぐ。

## ⑤深耕(新植開園)

休耕田又は耕作放棄地で開園する場合(梅雨明け)

8月

果実肥大盛期

## ①モモノゴマダラノメイガ防除

早生品種は6月中・下旬から、中生品種は7月中・下旬、晩生品種は8月上・中旬に防除剤を散布する。



モモノゴマダラノメイガの幼虫

## ②台風対策

春に接ぎ木したものや幼木等の支柱を補強し、結立を完全にします。

## ③実炭そ病防除

樹勢を衰えさせないことが大切。発生が予想されるときは、防除剤を2～3回散布する。

9月～10月

果実成熟期

◎(礼肥)

収穫

## ①収穫選果

鮮度が落ちないように早く拾う。選果はムシグリ、シワグリ、不整形果を完全に除き出荷する。

## ②追肥(礼肥)

9月下旬から礼肥として速効性肥料で年間施用量のチツソは2～3割、カリは1から2割を施すと、樹勢の回復と翌年の雌花の増加に役立つ。

## ③イガの処理

収穫直後直ちに地中50cm以上に埋めるか焼却する。青エミ果の多い園では必ず励行すること。



11月～12月

落葉期

◎(元肥)

縮・間伐

## ①縮・間伐

収穫後、落葉するまでに、隣接樹冠と1～2m間隔をあけるように行う。クリタマバチの被害は密植園に多いので、確実に実施すること。

## ②秋植苗木定植

深植えにならないよう注意する。特に土層が浅く排水不良の場合は、盛土をして植える。春植えより初期成長はよいが、寒冷地では春植にする。

## ③元肥

有機質肥料を主体に施す。成木では散肥後、耕うん攪拌し、幼木では環状に溝を掘って施す。リン酸は溶リンがよい。